

研究代表者 所属・職：社会福祉学部・准教授

氏 名：添田 正揮

研究課題名：ソーシャルワークにおける文化的コンピテンシー

～グローバルゼーションに対応したソーシャルワーク教育内容の開発に向けて～

研究の概要

(1) 研究の背景

近年のソーシャルワーク教育および実践のグローバルスタンダードとして、人種、民族、文化、階級、ジェンダー、性的志向、宗教、身体的精神的能力、年齢、障害、国籍等の人間の多様性（ヒューマン・ダイバーシティ）に対応するための能力として「文化的コンピテンシー」が示されている。文化的コンピテンシーは、人々の多様性に配慮し、ソーシャルワークの価値や理念、原則を基盤として実践するための課題解決能力として重視されている。文化的コンピテンシーは「気づき」「知識」「スキル」の3領域を上位概念として構成され、欧米ではソーシャルワーク教育および学習の目標として規定され、利用者への責任（アカウントビリティ）を果たすための指標としても位置付けられている。

一方、日本では、多様性や多文化状況に対してソーシャルワーク専門教育の実践理論システムが整備されていないため、学生は教育課程の段階でトレーニングを受けることができないというのが現状である。グローバルゼーションに対応したソーシャルワーク専門職の養成教育（講義・実習・演習体系）に含むべき事項の明確化とプログラム開発が必要である。

以上を踏まえ、ソーシャルワークの実践理論システム（理論、モデル、マニュアル）の観点から、先行研究や国内外の教育機関での実績に関する情報を収集・整理し、グローバルゼーションに対応したソーシャルワーク専門職の養成教育（講義・実習・演習体系）の開発や整備のための基礎研究として本研究を行った。

達成状況・成果内容

研究期間内に達成できた点と課題は以下の通りである。

(1) 文化的コンピテンシー尺度作成に向けた構成概念に関する先行研究の整理

NII 論文情報ナビゲータ CiNii Articles において、ソーシャルワークとコンピテンシー（コンピテンシー）とソーシャルワークに関連したキーワードで検索した結果、コンピテンシーの妥当性および信頼性を検討して作成された「尺度」に関する邦文文献はなかった。D.W.Sue (2001) による「文化的コンピテンシーの多次元モデル (Multidimensional Model of Cultural Competence in Social Work)」は、3つの次元（①特定の人種的または文化的グループの視点、②文化的コンピテンシーの構成要素、③文化的コンピテンシーの焦点）を整理するための概念的な枠組みを示したものであり、3×4×5 デザインで構成され、組合せの数だけ文化的コンピテンシーを表現することが可能となっている。

今後は、科学研究費補助金による研究として、全米ソーシャルワーカー協会（NASW: National Association of Social Workers）が提供している Social Work Abstract はもとより、First Search や Ebsco Host といった社会科学系海外文献データベースを中心に、ソーシャルワークならびに本テーマについて先行する心理学、精神医学、教育学、言語学など関連領域における文化的コンピテンシーについて文献調査を包括的に実施する。

(2) ソーシャルワークモデルおよびアプローチにおけるコンピテンシーの位置の明確化

コンピテンシーは多義的な概念である。辞書的

には、コンピテンスとは能力や有能さを意味している。ホワイトは、内発的動機付けの理論として、コンピテンスを「その環境で「効果」を上げるような方向へ向けられる本能的な力と、環境と共に成長する経験を捜しもとめること。」と定義している。ソーシャルワークの領域では、例えば、ジャーメインとギッターマン (Germain, C.B.& Gitterman, A.) らは、利用者の強さを表わす生活モデルの鍵となる概念として competence (力量) という概念に着目し、「保健福祉の分野のソーシャルワーク実践者にとって、専門家としての「アイデンティティ」 (identity)、「力量」 (competence)、そして「自律」 (autonomy) が重要であり、それらは相互依存的な関係にあるとした。

NASW の倫理綱領では、クライアントに対する責任として「文化的コンピテンスと社会的多様性 (Cultural Competence and Social Diversity)」という項目が規定されている。そこでは、ソーシャルワーカーは、文化および人間行動と社会における文化の機能や全ての文化に存在している強み (ストレングス) を理解することが求められると共に、社会的多様性の特徴に関する教育を受け、人種、エスニシティ、国籍、肌の色、性、性的志向、年齢、婚姻状態、政治的信念、信仰、精神的身体的障害に関係する抑圧について理解することが求められている。

グローバリゼーション時代において、人のグローバル化を意味する国際人口移動は社会福祉領域にもインパクトを与えている。例えば、外国籍住民が多く住んでいる自治体においては、行政サービスの未整備や住民との対立などが課題となり、社会福祉施設においては、外国にルーツのある人が利用者になるなどしている。国際人口移動の実態を踏まえ、人間の多様性に対応し、現在および将来の利用者や社会の利益をまもることができる人材を養成するための教育プログラムの整備が課題であり社会的責務と考えられる。